

第8回地下街と駅周辺地域活性化分科会記録

日 時 平成21年11月10日(火) 19:00~20:50
場 所 小田原箱根商工会議所 4階 会員談話室
経 過

【他地域のまちづくり会社について】

- ・前回の勉強会の際、まちづくり会社設立に際して、どのような組織にしていくかを検討するため、他地域のまちづくり会社の組織体制、役員構成や従業員などについて、事務局で調査することになっていた。事例は下記の7社についてHP及び電話にて調査し、その内容を説明した。
 - ・(株)まちづくり富山 (富山市) ・高松丸亀町まちづくり(株) (高松市)
 - ・豊田まちづくり(株) (豊田市) ・(株)金沢商業活性化センター (金沢市)
 - ・まちづくり福井(株) (福井市) ・(株)飯田まちづくりカンパニー (飯田市)
 - ・(株)みらいもりやま21 (守山市)
- ・続いて、松本マネージャーより、視察した(株)金沢商業活性化センターの運営について、説明を行った。
- ・金沢では例えば、しにせ資料館について、びっくりする施設ではないがしっかりと町並みを残しており、また、その中で商いを取り入れている。商業と歴史文化という両輪ということでは小田原でも取り入れられるのではないか。
- ・富山は行政等から出向されてきて人件費がかからない等、ボランティア色が強く、やらざるを得ないという感じ(市役所が引っ張っている)であるが、金沢は、効率的、現代的で良い仕組みでありベンチマークにしても良い。システムチックで参考になる。
- ・高松では、建物を建築する等、新しいものを作って事業をしているが、金沢ではあるものを活かして事業している等、会社が自立している。単なる受け皿ではなく、コンセプト・目標があり、信頼のおけるまちづくり会社である。
- ・(株)みらいもりやま21では、昨年、設立された新しいまちづくり会社であるが、公募にて多くの人から出資を得ている。どのように出資者から理解を得たのか？
- ・富山、金沢、福井等は市が50%以上出資しているが、補助金の補助率に影響(有利な補助が受けられる)してくるためである。市の出資がない(少ない)と公益性がなくなる。

【当地域のまちづくり会社について】

- ・広い目で見ると民間でも行政でも出来ない事をやっていきたい。ただ単に、まちづくり会社を存続・維持するようなことはしたくない。
- ・事業の絞り込み、優先順位を検討しなければならないが、収入源の確保は必要であり、赤字事業のランニングコストを埋められるかが問題である。
- ・自立出来る収益事業がどのくらい確保できるかによって、どれだけ資本金や従業員を集めるか等、会社の規模(大きさ)を検討しなければならない。
- ・利益が出来ていくために、次の活性化が出来てくる。活性化をするために自立していないといけない。

- ・出資をする人には会社の意義をとことん話して理解してもらわないといけない。慈善事業ではない。
 - ・行う事業が活性化につながっているか、事業内容の精査は必要である。
 - ・金沢の様な、プロパーの社員を雇用できる様な自立した会社をしたい。また、商い塾の様なものを開催して、まちづくり会社が人づくり、後継者育成をしていきたい。
 - ・最初は大きいことをやらないで、少しずつ掘り起こしていきたい。ソフト事業もやっ行って行かないと活性化していかない。
 - ・以前、意見が出たが、ギャンブル性がある事業はやらない、不動産の取得等リスクがある事はやらない（仲介はOK）、本業の活性化に逸脱する事業はやらない。
 - ・早く組織を作って活性化をしていきたい。
 - ・具体的な事業として、フリーペーパー作成、保険業務、イルミネーション、イベント代行などの意見が出た。
- ・11月27日（金）が本勉強会の最終回であるが、B分科会から今まで出た意見の取りまとめとして、①B分科会の流れ（まちづくり会社の必要性に至った経緯）、②まちづくり会社の目的、主旨、事業内容（どんなまちづくり会社にしていくか、役割、必要性）について、事務局でまとめることになった。

以 上

<当日出席者> *順不同・敬称略

古川達高、佐藤慎一、石田一夫、中戸川洋、豊住武志